

活 動 記 録 書

開 催 日： 令和7年9月4日(木) 天候 雨	開催テーマ： 「横浜市立歴史博物館」学芸員による解説と見学
開催場所：横浜市都築区中川中央	記 入 者：浜辺隆文
参加人数： 会員 276 名 ビジター 1 名 計 27 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：市営地下鉄センター北駅(集合)～横浜市歴史博物館(解説・見学)(解散) 今回は集合場所での受付時の配布資料はなし。A 班 B 班の 2 組に分かれて説明を受ける。 A 班；企画展～常設展 B 班；常設展～企画展 約 1 時間で交替 14 時から 16 時 企画展：「君も今日から考古学者 横浜発掘物語 夏休み編」として学生向けに企画された特別展。地域のリーダーの墓である古墳には副葬品として埴輪、土器や土偶などがあるが、今回の企画展では顔に注目して展示を行った。横浜の古墳時代は、西暦 3 世紀の中頃から始まった。横浜市域には古墳の数はそれほど多くはないが、いくつかの特徴的な副葬品を持つ古墳がある。その中で顔を持つ、公田ジョウロ塚遺跡(栄区)の土製頭部片、原出口遺跡(都筑区)の筒形土偶、上台遺跡(鶴見区)の人面付土器などについて説明をもらった。又、青葉区の長光寺原古墳群では鉄でできた鎧兜や武器、馬に着ける飾りが見つかった。今の大阪府や奈良県にいた日本列島最高のリーダーである大王から与えられたものであると考えられている。都へ運ぶ税の俵には荷札がつけられていたが都へついて検品がすむと、要らなくなって外され、捨てられました。平城京跡で木簡として大量に出土している。武蔵野国や相模国から運ばれた税に付けられていた荷札も見つかっている。企画展は橋口学芸員から説明を受けました。 常設展：今回は近世と中世について説明を受けた。 冒頭、本博物館の特徴あるレイアウトについての話があった。従来の多くの博物館のレイアウトは会場がシリーズに繋がっているが、本会場のレイアウトは全体が円形状になっており。中央に休憩所兼全体説明の場があり、そこから周囲に放射状に時代別の展示室と映像コーナーなどの部屋が設けられており、観覧者は各コーナーを巡ると中央のコーナーに戻り、次は好きなコーナーへ進むことが出来る。つまりシリーズでないで好きな所だけを見ることもできる。今回は時間の関係から横浜の生い立ちを語る近世と鎌倉時代交易の中心となった六浦港の中世に絞って説明を受けた。近世の市域の東海道には全国でも珍しく 3 つの宿場、神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿があり、神奈川宿は広重の浮世絵にあるように海に面した景勝地であった。展示室の中央には神奈川宿のさくら屋が展示されており 2 階からの景色を楽しむ客の姿がある。当時の横浜村は 100 名ほど寒村で横浜の名の由来は横に細く長く伸びた砂州であったことに由来するとする説が有力である。江戸時代前期に江戸の材木商の田中勘兵衛が開発をはじめ主導した。吉田新田は大岡川と中村川と現在の京浜東北線で囲まれた釣鐘型の土地を高い堤を築き海水を川に流して開拓した。東海道など街道を行き交う人々や、神奈川宿の繁栄ぶりが分かるジオラマが展示されている。ちなみに当時の横浜村は現在の元町、山手町、本町通り一帯に位置する。 中世の展示室では鎌倉時代から室町時代の武士による政治のもとに、横浜の人々がどのような生活を送っていたかをテーマに展示されている。展示室の中央には中世横浜の海の玄関口で、文化、交易、産業の中心地であった六浦湊(金沢区)や当時の周辺の地形を復元した大型ジオラマが置かれている。六浦は鎌倉の外港として中国との貿易や江戸内湾の交易によって栄え、武士や商人、宗教家などが多く集まり、賑わいを見せた。常設展は小林学芸員に説明を受けた。	
参加者の状況・意見など 横浜歴史博物館で説明を聞き展示物を見て、横浜の鎌倉時代そして、江戸時代に小さな寒村から今の横浜に発展していく生い立ちを知ることができ非常に興味深かった。高齢者から 2 時間の立ちっぱなしはきつかったとの声があった。	
次回の予定： - 令和7年10月2日(木)10時 金沢文庫駅西口集合 - テーマ：釜利谷の古刹禅林寺住職のお話を聞く	